教育目標　心身を鍛え、たくましく生きる

三中だより

令和４年５月１３日
５月号
調布市立第三中学校
chofu3@chofu-

「明日を生きる人」

校長　大瀬　義一

新型コロナウイルスも、ウクライナをはじめとする世界の情勢もなかなか収まらず、子供たちが生きる明日の世の中に不安を感じる今日この頃です。そんな時代にあるのに、今の日本の世の中を見るとさらに不安がつのります。それは、自分が不快だったり、思ったようにいかないことが起こったりしたとき。原因を他人に求める傾向が強い。そして、解決も他人任せ、他人のせいにして自分の責任を振り返らない。そんな大人たちが多いように思われます。

不安定な時代を生きていかなくてはならない生徒たちですが、危機感をもって勉強をする必要があると思います。日本でも成人年齢が１８歳に引き下げられました。中学を卒業して３年で成人です。その準備ができているようにはとても思えません。情報を精査するための知識をつけるとか、自分に責任を持ち自己解決力をつけるとか、そういうところの準備が足りないのではないでしょうか。

先日行われた生徒総会においても話しましたが、生徒総会は「民主的な手続き」を学ぶ機会です。１年の学級委員会の答弁で「総会で承認された活動方針や活動内容以外の活動はできません」というものがありました。固いようにも聞こえますが、こういうことが大切です。不足だと思うことがあれば、意見を出せるチャンスであり、その時に意見を言わなければ後で文句を言う資格はありません。実行する委員会でも、承認されていない活動を勝手に行ったのでは、総会の意味がありません。一部の人間が勝手に物事を進めるのは専制につながります。１８歳で成人になり、選挙権が与えられるということは、国の政治に対しても参加してきちんと意見を持つ必要があるということです。世の中が不安定になると、強力なリーダーシップを求める傾向があり、思考を一部の人間に委ねてしまう危険性があります。第二次世界大戦の時、ヒトラーを独裁者として直接選んだわけではないが、国民の選挙によりナチ党を支持し、国民が強いリーダーシップを求め、その権力を握る方向性を支援したことには変わりはありません。国民が国の方向性を一人の人間に委ねてしまったのです。

民主的な手法は手間と時間がかかります。しかし、人々が「主」になることを怠ると、悪しき歴史が繰り返される危険性があります。一人ひとりがしっかり考えられる人にならなくてはなりませんし、手間がかかっても民主的な手順を守ることが平和な世の中を作るために大切なことなのです。

そういう判断ができる「成人」になるためには勉強が必要です。学校で歴史を学びますが、歴史の事実を覚えるだけではなく、歴史の事実から今何をすべきか、これからどうすべきかを学び取らなくてはなりません。

これからの未来を生きる生徒たちには、どのような変化があったとしても自分の力で生き抜ける強さが必要です。自分にできることは何か、得意なことのスキルを身につけてそれを活かして、生きていく必要があります。高校に行って大学に進めば生涯安定という時代では無いのです。自己決定と自己責任を負える大人になっていかなくてはいけません。そのための学校での勉強であり、経験であるのです。多少の困難でへこたれたり、あきらめたりせず、それを乗り越える力をつけ、たくましく明日を生きる人になってほしいと考えています。

教育目標　自ら学び考え、向上しようとする人

☆新入生歓迎会☆

4 月 12 日新入生歓迎会を行いました。生徒会代表による学校活動や各専門委員会の説明、各部活動の紹介を通して新入生に早く学校生活に慣れてもらえるよう工夫する上級生の姿が見受けられました。

☆調布市防災教育の日☆

1 校時は自衛隊から講師をお招きして、災害時の安全対処についての講話をしていただきました。「より安全な避難方法とは何か。」「ハザードマップで災害予測をどのように行うのか。」などについてクイズ形式で学びました。「①普段から災害の危険性と常に隣り合わせで生活していることを認識すること」「②災害発生時に「生き残る」ための「備え」と「行動」が重要であること。」上記２点をあらためて考える良い機会となりました。

2 校時は「命の授業」と題し学年ごとにそれぞれ「命」をテーマに授業を展開しました。ワークシートの感想には「家族の大切さを再認識できた」「当たり前の日常に幸せを感じた」「自分は今とても幸せなのだ」「自分の命を、他の命と同じように大事にしたい」「命は何よりも尊い」「一日一日を大切にしたい」などの意見が挙がりました。

また、あわせて避難訓練も実施され、『お』おさない・『か』かけない・『し』しゃべらない・『も』もどらない、を意識して、全体避難を行うことができました。

教育目標　自他をおもいやる、心豊かな人

☆離任式☆

４月 28 日に行われた離任式では昨年度末に転任された先生方が本校にお越しくださいました。生徒代表による花束贈呈、先生方からは三中での思い出をお話ししていただきました。

以下、先生方から寄せられたメッセージの一部を紹介いたします。

◇北地　宏充先生◇

三中では 3 年間という短い期間、しかもコロナの影響もあり多くの行事を一緒に楽しむことができなかったのが心残りです。そんな中でも演劇部の校内公演を行い生徒たちに活躍の姿を観てもらう機会を作れたことは誇れる置き土産だったと思います。これからの三中を担う皆さんには学習、行事、部活ができる、選べる環境が当たり前ではなく「ありがたい」こととして一つ一つ大事に取り組んでもらいたいと思います。

◇田邊　侑希先生◇

お元気ですか？三中は私が先生になって初めて着任した学校です。7 年間をこの学校で過ごし、沢山の思い出がありますがやはり皆さんの素直さや人懐っこさに元気をもらっていたと実感しています。これからも人に元気を与えられるような皆さんでいてください。離れた学校から応援しています。

◇島津　朋子先生◇

三中生の皆さん、かつて卒業生が言った「一生懸命はかっこいい」という言葉を学校生活の中で大いに体験し、たくさんのことにチャレンジしてください。きっと皆さんの人生を豊かにする出来事が待っていることでしょう。

◇図書館司書　鈴木　久美子さん◇

短い期間でしたが皆さんと図書室で過ごした時間は充実したものでした。これからもたくさんの本を通じて素敵な大人になって下さい。応援しています。

◇技能主事　小保方　誠さん◇

新しい環境で改めて三中の良さを感じています。それは「挨拶」です。どうぞこれからも続けていって下さい。5 年間お世話になりました。

☆8 組校外学習☆

5 月 6 日、8 組による高尾山校外学習が行われました。当日は天候に恵まれ生徒たちは往復の登山に挑戦しました。新年度が始まり初めての校外活動でしたが、集団行動におけるルールやマナーを学ぶ貴重な機会となりました。

☆生徒総会☆

5 月 7 日、生徒総会が開催されました。生徒会本部のもと各学級、各委員会で討議を重ねて学校生活を自分たちの手でより良いものに作り上げていこう、という姿勢が印象的でした。冒頭、校長先生よりお話いただいた「生徒総会とは民主的な手続きである」ことを踏まえた上で生徒総会に臨み、この日提案された議案は可決され、今年度の委員会が本格的にスタートしました。